

2014 年度都市計画マスタープラン実習

エネルギーシシユシテイ つちうら

8 班

班長 武若 苑子

副班長 越川 知紘

羽場 一真

大山 倫正

T A 赤澤 邦夫

目次

第 1 章 土浦市の概要	1
第 2 章 土浦市の現状	2
2-1.人口	2
2-2.農業	3
2-3.工業	5
2-4.商業	6
2-5.観光	7
2-6.医療	8
2-7.福祉	9
2-8.防犯	10
2-9.防災	10
2-10.交通	11
第 3 章 マスタープランの構想	12
3-1.将来人口設定	12
3-2.目標都市像	12
3-3.全体構想	12
第 4 章 部門別構想	13
4-1.人々でにぎわうエネルギーなまち	14
4-2.地域活動でエネルギーに交わるまち	15
4-3.安心してエネルギーに暮らせるまち	16
4-4.緑とのふれあいでエネルギーなまち	17
4-5.皆がエネルギーに運動できる霞ヶ浦	18
第 5 章 地区別構想	19
5-1.中心市街地	19
5-2.神立・おおつ野	20
5-3.荒川沖	20
5-4.新治	21
5-5.霞ヶ浦	21
第 6 章 重点計画	22
6-1.「人々でにぎわうエネルギーなまち」への計画	22
6-2.「地域活動でエネルギーに交わるまち」への計画	24
6-3.「安心してエネルギーに暮らせるまち」への計画	25

6-4.「緑とのふれあいでエネルギーッシュなまち」への計画.....	26
6-5.「皆がエネルギーッシュに運動できる霞ヶ浦」への計画.....	28
第7章 まとめ.....	30
謝辞.....	31
参考.....	32
付録.....	34
ヒアリング調査.....	34

図表一覧

図 1：土浦市の位置.....	1
図 2：近年の土浦市の人口と世帯当たり人口.....	2
図 3：コーホート要因法による人口推計.....	2
図 4：平成 18 年土浦市農業産出額の構成.....	3
図 5：農家数と農業人口の推移.....	4
図 6：土浦市年齢別農業就業人口.....	4
図 7：工業系用途地域の分布.....	5
図 8：年間商品販売額.....	6
図 9：従業者数と事務所数.....	6
図 10：平成 24 年の月別観光入込客数.....	7
図 11：亀城公園.....	7
図 12：人口密度・高齢化率と医療施設配置.....	8
図 13：地区別の幼年人口（0～14 歳）の割合分布.....	9
図 14：福祉分野の市民の満足度と重要度の分布.....	9
図 15：1,000 人当たり犯罪認知件数.....	10
図 16：1910 年の下高津での水害.....	10
図 17：各駅の一日平均乗車人員.....	11
図 18：将来人口推計.....	12
図 19：目標都市像・部門別構想.....	13
図 20：中心市街地の空き店舗の状況.....	14
図 21：年度別歩行者交通量調査結果.....	14
図 22：一万人当たりの公民館のサークル登録状況.....	15
図 23：種類別活動団体.....	15
図 24：1000 人当たりの犯罪認知件数.....	16
図 25：地区別の幼年人口（0～14 歳）割合の分布.....	16
図 26：農用地区域における耕作放棄地の割合.....	17
図 27：耕作放棄地となった理由.....	17
図 28：農地所有者が貸付等の希望.....	17
図 29：浮島湖水浴場.....	18
図 30：地区区分.....	19
図 31：モール 505.....	19
図 32：東櫓.....	19
図 33：放置自転車.....	20
図 34：土浦市公設地方卸市場.....	20

図 35 : 川口運動公園.....	21
図 36 : ヨット	21
図 37 : 中心市街地の空間のイメージ.....	23
図 38 : つちマイルにおける事業スキーム.....	23
図 39 : 防音室のイメージ.....	24
図 40 : コミュニティ道路のイメージ.....	25
図 41 : 「つちレポ」の概要.....	25
図 42 : 市民農園の運営.....	27
図 43 : 市民農園の設置想定地.....	27
図 44 : 国体開催地および宿泊施設建設予定地.....	28
図 45 : 宿泊施設の完成イメージ.....	29
図 46 : 目標都市像・部門別構想.....	30
表 1 : 新治中学校地区における耕作放棄地面積.....	18
表 2 : 中心市街地の予想流入増加人数.....	22
表 3 : 市民農園に関するヒアリング調査.....	26
表 4 : 市民農園の要領.....	27
表 5 : 宿泊施設の整備費用.....	29

第 1 章 土浦市の概要

土浦市は、図 1 に示される茨城県南部に位置する都市で、人口 141,896 人、世帯数 58,932 世帯（平成 27 年 1 月 1 日現在）、面積が約 122.99 km²である。地形的には北部に新治台地、南部に稲敷台地と 2 つの台地に囲まれた桜川低地と、霞ヶ浦沿岸部という要素からなる都市である。かつては城下町、水戸街道の宿場町として発展した。霞ヶ浦に面しており、江戸時代は水運の拠点地として、戦時中は海軍のまちとして栄えた。しかし、現在の土浦市は人口減少や高齢化などの課題を抱えている。

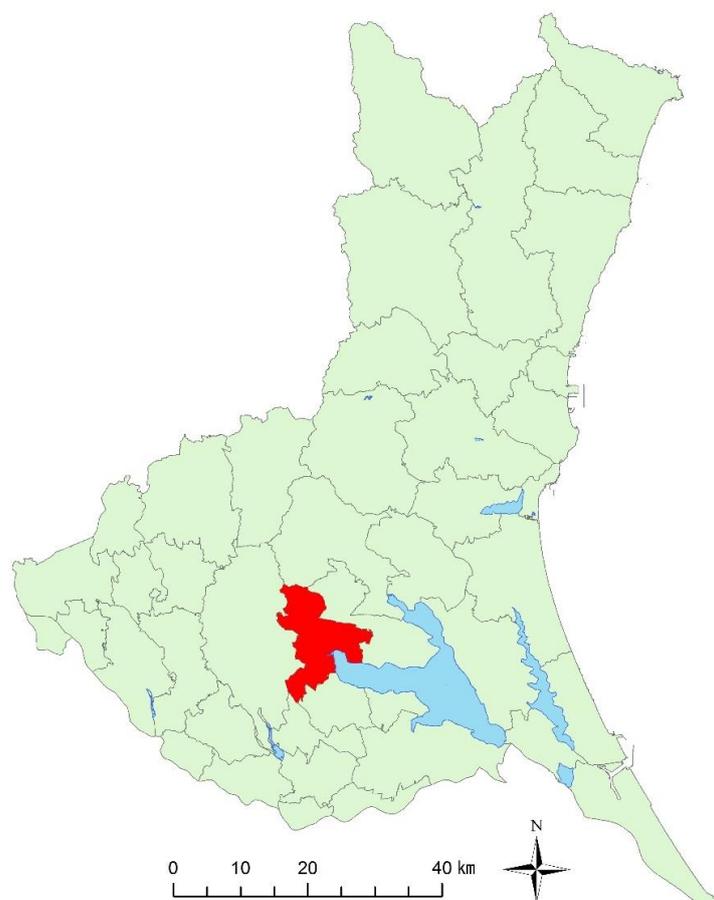


図 1：土浦市の位置

第 2 章 土浦市の現状

2-1.人口

図 2（統計つちうら）で近年の土浦市の人口及び世帯当たり人口を示す。図 2 から土浦市の人口は平成 22 年から減少傾向であり、一世帯当たりの人口も減少傾向である。

図 3 で示される 2010 年度の土浦市の人口（茨城県常住人口調査結果）を基準としたコーホート要因法による人口推計によると、2040 年の人口は約 117,000 人となり、高齢人口（65 歳以上人口）の割合は 35%を超えることが予想される。また、年少人口（15 歳未満人口）の割合は減少傾向である。今後、人口の大幅な減少と少子高齢化が予想される。

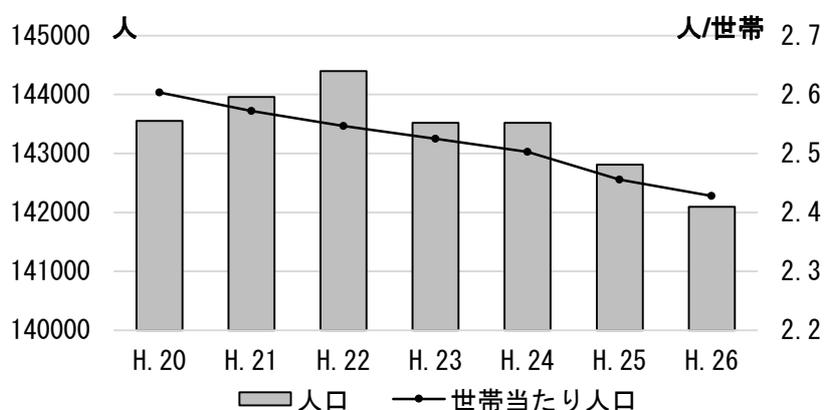


図 2：近年の土浦市の人口と世帯当たり人口

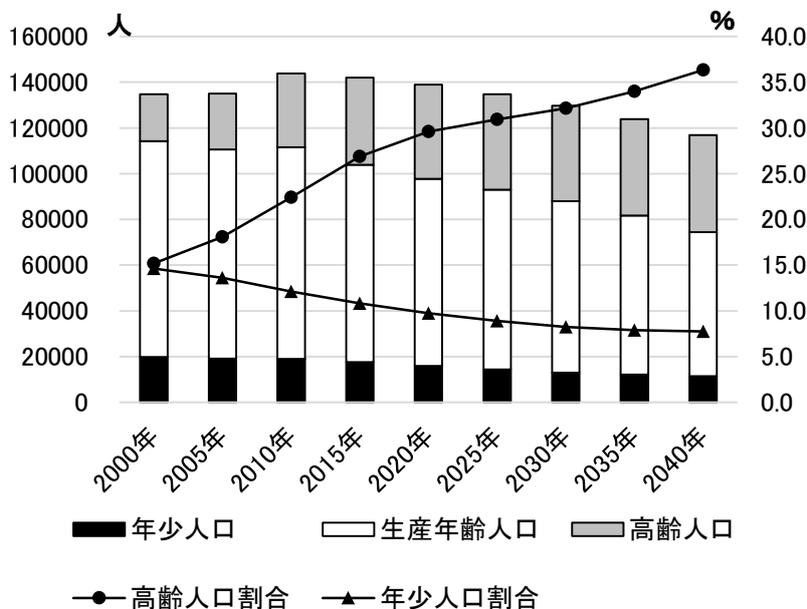


図 3：コーホート要因法による人口推計（基準年 2010 年）

2-2.農業

土浦市の農業は、「平成 18 年茨城農林水産統計年報」によると、図 4 より農業産出額は 96 億 8000 万円である。産出額の構成は米が 14.5%、野菜 45.6%、花き 9.9%、果実 7.7%、畜産類 19.1%、その他 3.2%となっている。野菜に限らず、花きや果実、畜産類も産出されている。野菜の内訳としては、全国生産量日本一を誇るレンコンをはじめ、平成 18 年度作況調査(野菜)より、収穫量が多い野菜としてネギ、馬鈴薯、白菜、にんじんなどが挙げられる。土浦市内には、それらの農産物を購入できる場として、JA 農産物直売所「サンフレッシュ」が設置されている。

農家数と農業人口の変化は、「平成 25 年度統計つちうら」によると、図 5 より、農家数と農業人口は減少傾向である。特に、兼業農家の減少が大きい。また、「2010 年世界農業センサス報告書」によると、図 6 より農業就業人口の高齢化と若い世代の減少が問題として挙げられる。若い世代は、農業の主力となり将来の農業を担い、土浦市の農業を支える上で欠かすことができない。

土浦市では市民の方が農作物の栽培、農業体験ができる機会を設け、農業を身近に感じられる事業を行っている。土浦市が運営している市民農園として高津農園、摩利山農園、神立農園、中村西根農園、虫掛農園の 5 つが設けられている。土浦市役所の農林水産課へのヒアリングより、これらの市民農園の利用率は高いことが分かった。このことから農業に関心のある市民の方がいることがうかがえる。

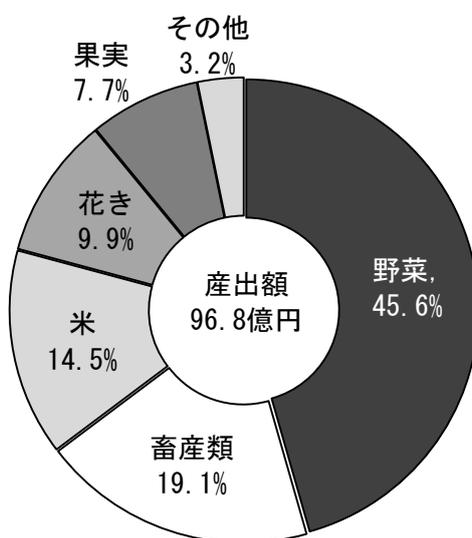


図 4：平成 18 年土浦市農業産出額の構成

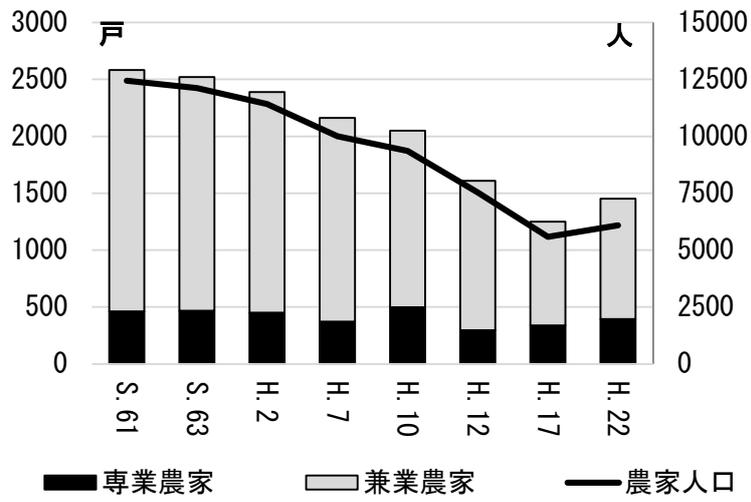


図 5：農家数と農業人口の推移

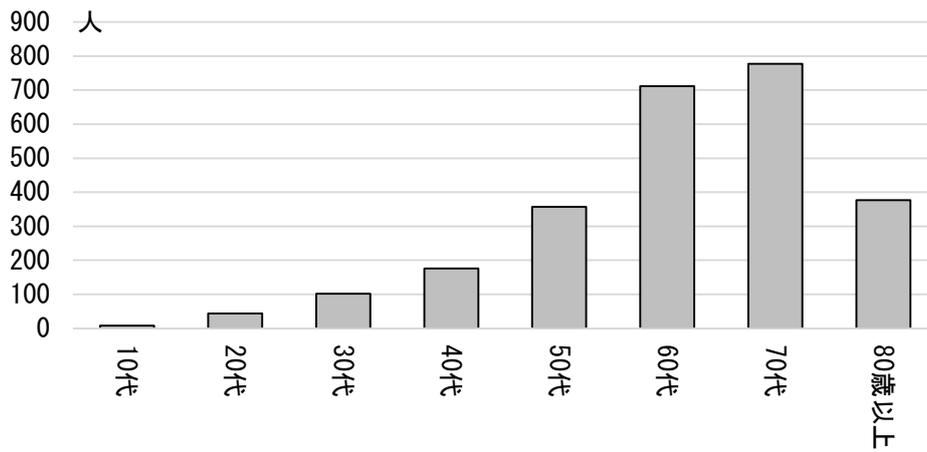


図 6：土浦市年齢別農業就業人口
(自営農業に主として従事した世帯員数)

2-3.工業

土浦市内には工業団地として、図 7 (国土数値情報 用途地域データ) に示されるように、テクノパーク土浦北工業団地、東筑波新治工業団地、土浦・千代田工業団地、おおつ野ヒルズがある。これらの工業団地の近くには常磐自動車道のインターチェンジがあり、交通のアクセスが良い。土浦市は企業立地奨励金交付制度を整備しており、企業誘致の推進を行っている。

規制や基準の整備により、大気汚染や水質汚濁などは改善されている。しかし、工場における事故の発生等により、環境へ大きな負荷を与える可能性がある。環境への配慮や施設の管理が必要となる。

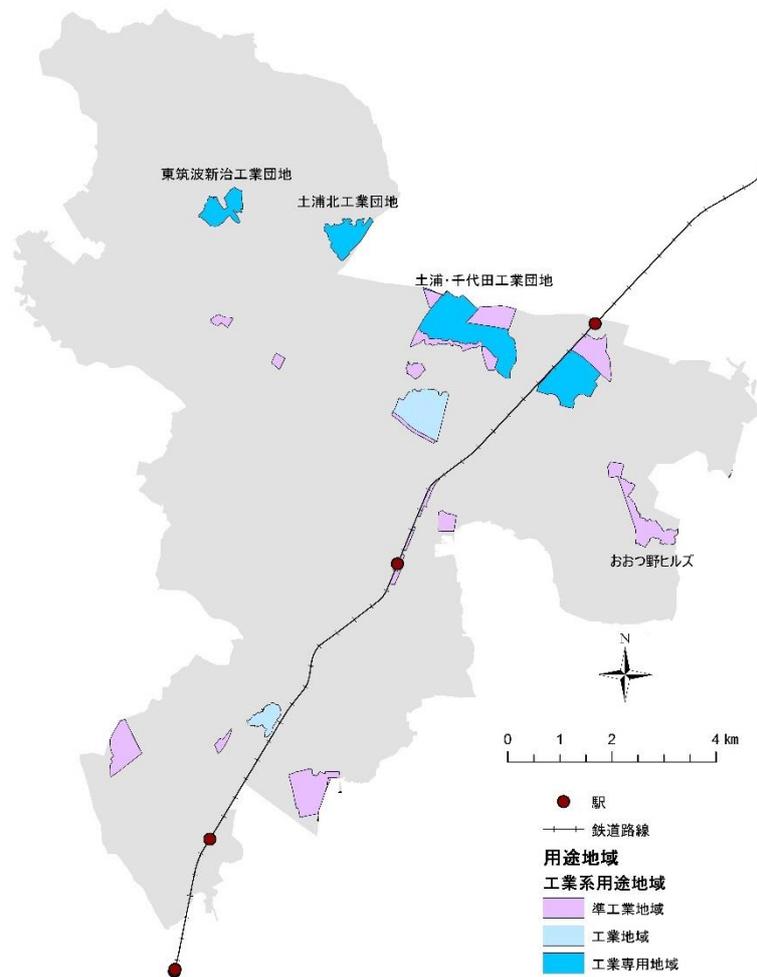


図 7 : 工業系用途地域の分布

2-4. 商業

土浦市の商業に関して、図 8（統計つちうら）の年間商品販売額の推移より販売額が減少していることがわかる。図 9（統計つちうら）より、従業者数及び事務所数のいずれにおいても、減少の傾向があることが読み取れる。実際、土浦の中心市街地には、土浦駅周辺のモール 505 などに加え、商店街に店舗が多く存在するが、それらの中には、空き店舗になってしまっている商店も多いことを実感として感じた。これは、近年の郊外型大規模店舗の進出などによると考えられる。そして、中心市街地の空洞化が進みつつある。かつては栄えていた商店街が衰退してしまっ原因を探り、今後は空き店舗の有効活用を考えることが大きな課題である。

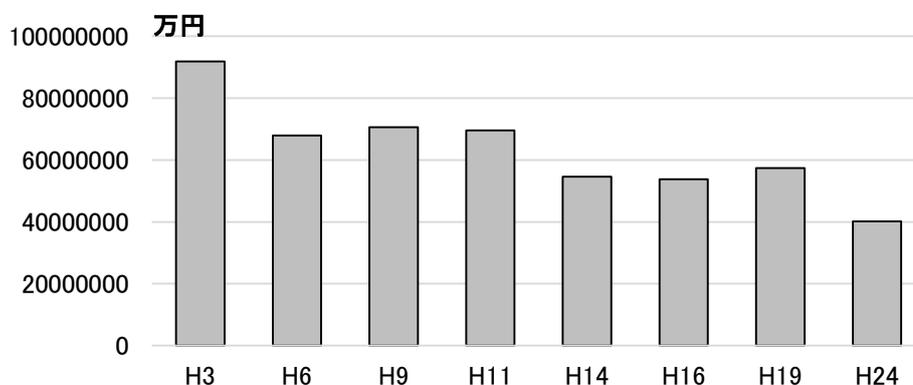


図 8：年間商品販売額

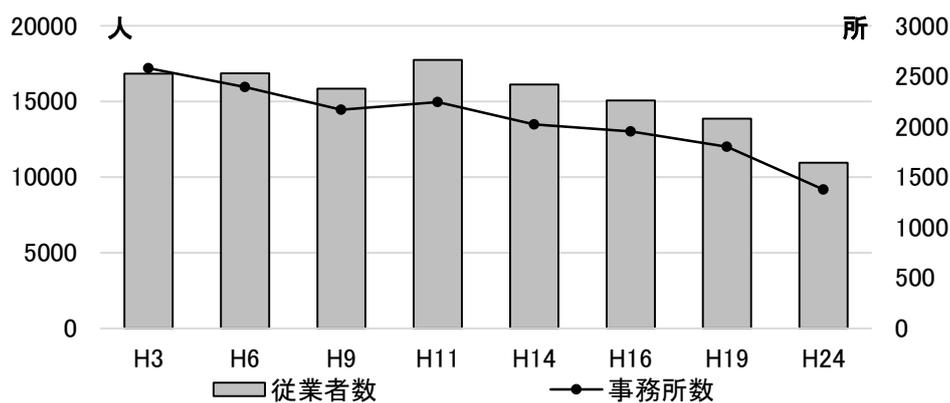


図 9：従業者数と事務所数

2-5.観光

土浦市には自然・歴史を活かした数多くの観光スポットが存在する。新治地区には小町の里や朝日峠展望公園があり、自然豊かな景色を楽しむことができる。土浦城址・城下町では、亀城公園の桜やスイレン、また真鍋小学校では、県の天然記念物にも指定されているソメイヨシノを見ることができる。霞ヶ浦の湖岸には、霞ヶ浦総合公園があり、アサザなどの水生植物を楽しむことができる。そして、市制 50 周年を記念して建てられたオランダ型の風車にある展望台から、霞ヶ浦を一望することができる。

図 10 (平成 24 年観光客動態調査報告) に示されるように、土浦市の平成 24 年の月別観光入込客数(延べ人数)をみると、4月、8月、10月が他の月と比較して、観光客数が多くなっていることがわかる。4月には土浦桜まつり、8月には土浦キララまつり、10月には土浦全国花火競技大会といった大きなイベントが開催されるため、観光客数が多くなっていると考えられる。しかし、他の月にもイベントは開催されているにもかかわらず、他の月では観光客数が伸びていないことが現状である。つまり、観光客数は「土浦全国花火大会」「土浦きらら祭り」「土浦さくら祭り」の3つのイベント時に集中しており、土浦に存在する観光資源を活かしているとは言えない状況となっている。

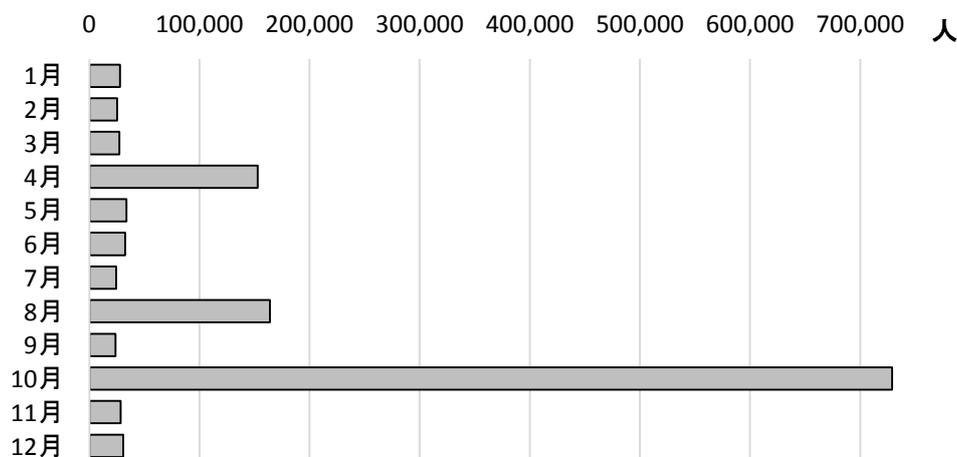


図 10 : 平成 24 年の月別観光入込客数 (延べ人数)



図 11 : 亀城公園

2-6.医療

土浦市の医療サービスを提供している施設は、図 12（平成 22 年国勢調査）に示されるように、人口の集積する箇所には医療施設が存在する一方で、それ以外の地域ではその数が少ないことが読み取れる。特に、旧新治村とおおつ野地区では顕著となっている。なお、おおつ野地区には平成 27 年 10 月に協同病院が移転する。また、高齢化率の観点で見ると、人口密度の低い地域ほど、高齢化率が高いことが読み取れる。今後医療サービスの需要は高齢者を中心に高くなっていくことが予想されることから、医療施設の充実や医療機関までへの公共交通機関の充実を図っていく必要性が出てくると予想される。

近年平均寿命が延びていることから、いつまでも健康に過ごすために、高齢者を中心に健康に対する意識を高めていくことが重要なことである。

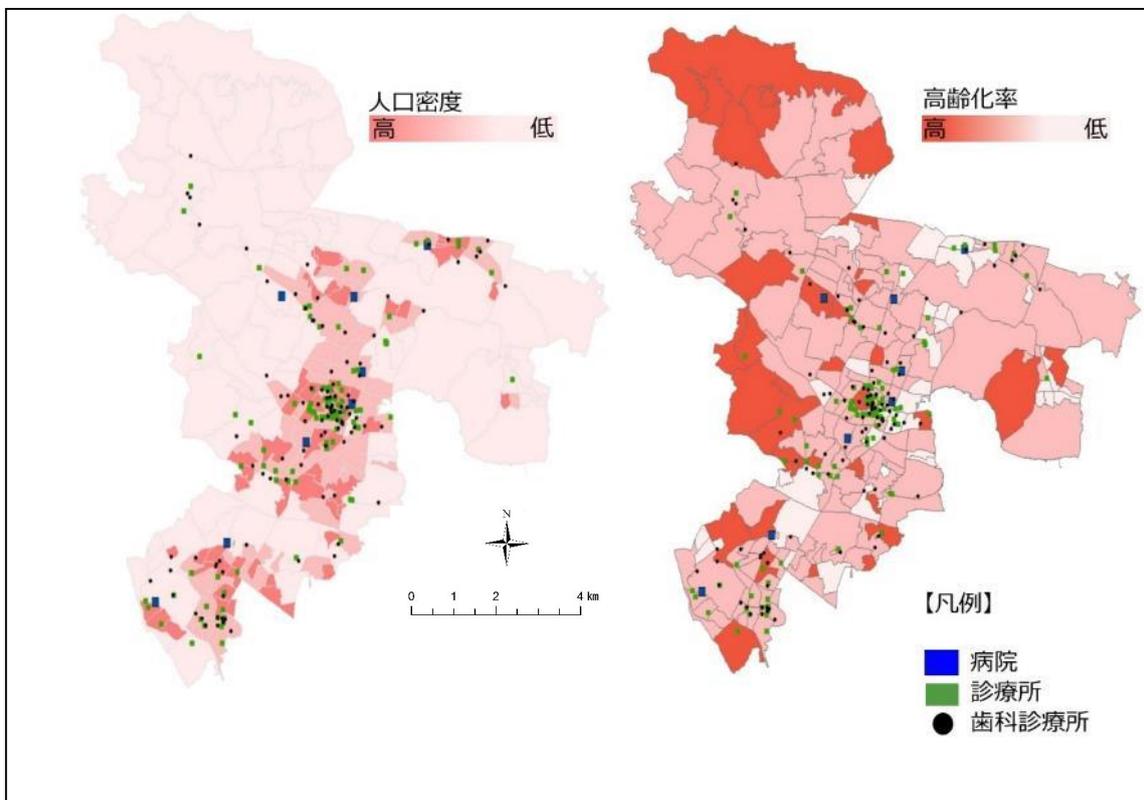


図 12：人口密度・高齢化率と医療施設配置

2-7.福祉

人口割合で見た高齢者の割合は年々増加傾向である。また、土浦市での幼年人口（0～14歳）の割合を地区別に見ると、図 13（平成 22 年国勢調査）のようになる。これより幼年人口は、中心市街地に対して、郊外に多いことが読み取れる。しかしながら、今後少子化が進行することによって、さらに地区ごとの幼年人口の割合の差が大きくなることが考えられる。

さらに、図 14（平成 25 年土浦市民満足度調査）で示される福祉事業に対する市民の満足度と重要度を見てみると、多くの事業が重要と答えられているが、その満足度はまちまちである。

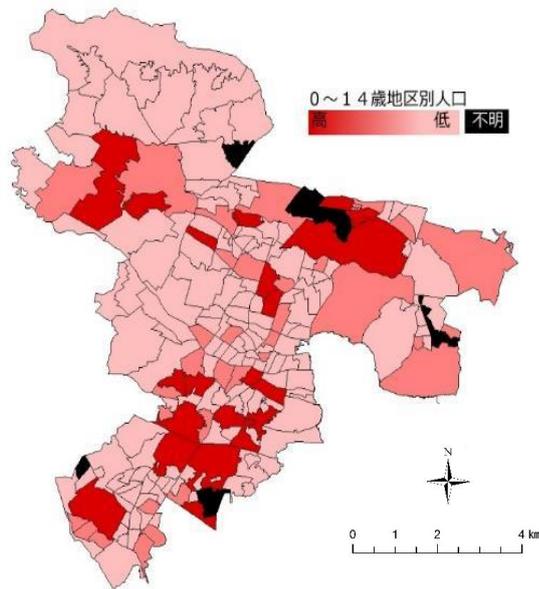


図 13：地区別の幼年人口（0～14 歳）の割合分布



図 14：福祉分野の市民の満足度と重要度の分布

2-8.防犯

平成 25 年の土浦市の 1,000 人当たり犯罪認知件数は、図 15 (市町村別認知件数・犯罪率) に示されるように、18.54 件であり、茨城県の平均の 11.95 件と比較すると、県内の市町村別で最も高く、決して好ましい状況であるとはいえない。これに対し、土浦市内では住民による防犯ボランティアを行う自主防犯組織が 168 町内で約 7,000 人 (平成 26 年 3 月現在) 存在するなど、市民主体での防犯活動は盛んである。

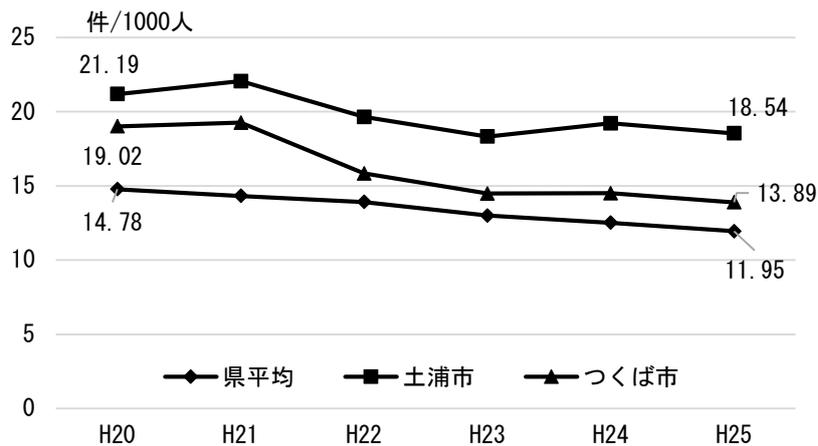


図 15 : 1,000 人当たり犯罪認知件数

2-9.防災

土浦市では、図 16 (霞ヶ浦への招待 霞ヶ浦の洪水) に示されるように、過去には洪水が多く、近年の堤防が整備されるまで数年に 1 度の割合でまちの広域が浸水の被害に遭っていた。この被害は 1783 年の浅間山の大噴火による火山灰で河口が狭くなったことから生じるようになった弊害と言われている。



図 16 : 1910 年の下高津での水害

(http://www.kasumigaura.pref.ibaraki.jp/04_kenkyu/introduction/documents/21.pdf)

2-10.交通

土浦市において、国道6号（水戸街道）が重要な幹線道路である。国道6号と平行して常磐自動車道があり、土浦市内には土浦北と桜土浦の2つのインターチェンジがある。また、圏央道が整備されることで、土浦市の交通に大きな影響を与える可能性がある。自転車道として、りんりんロードと霞ヶ浦自転車道の整備が進められている。また、歩道は安全・安心して歩ける空間の整備が求められている。

自家用車の普及により、土浦市内を運行する路線バスの利用者が減少している。路線バスの減便や廃止も発生しており、地区によっては公共交通が不便となっている地区も存在する。自動車を利用することができない高齢者や学生などの交通弱者にとって、公共交通の衰退は課題である。路線バス以外に、高速バスが運行されており、成田空港や大阪・京都、水戸等の路線が運行されている。

新治地区で平成23年10月からコミュニティバスが導入されたが、利用者数が伸びず、平成26年3月31日で運行が終了となった。

NPO法人まちづくり活性化土浦が事業主体となって、平成19年から「キララちゃん」が本格的に運行されている。「キララちゃん」は中心市街地の活性化を目的としており、現在土浦駅を拠点として、3路線が運行されている。事業費の不足分は行政から支援を受けているが、自立した運営を目指している。

のりあいタクシー土浦が運行されており、自宅等から指定場所まで行き来できる。利用できるのは65歳以上の土浦市民とその介助者で、運賃は年会費2000円、利用料金片道500円である。

鉄道に関して、土浦市内にはJR常磐線荒川沖駅、土浦駅、神立駅の3つの駅があり、図17（JR東日本 各駅の乗車人員）より、これら3駅の1日平均の乗車人員を見ると、減少している傾向がある。また、平成27年3月より、上野東京ラインが開業し、現在上野駅止まりとなっている常磐線が東京駅まで乗り入れるため、常磐線の利便性の向上が予想される。それにより土浦に人を呼び込む契機となる可能性がある。

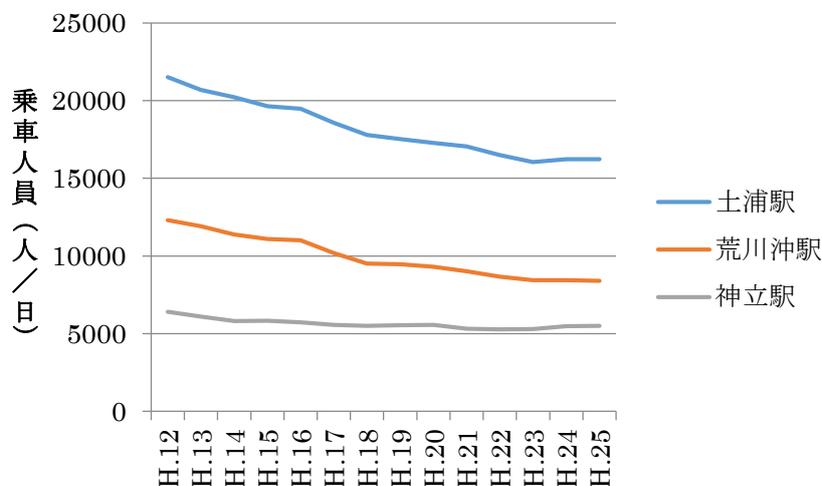


図 17：各駅の一日平均乗車人員

第 3 章 マスタープランの構想

3-1. 将来人口設定

図 18 で示される 2010 年度の土浦市の人口（茨城県常住人口調査結果）を基準としたコーホート要因法による人口推計に基づき、この人口推計に対応できるような計画を策定する。

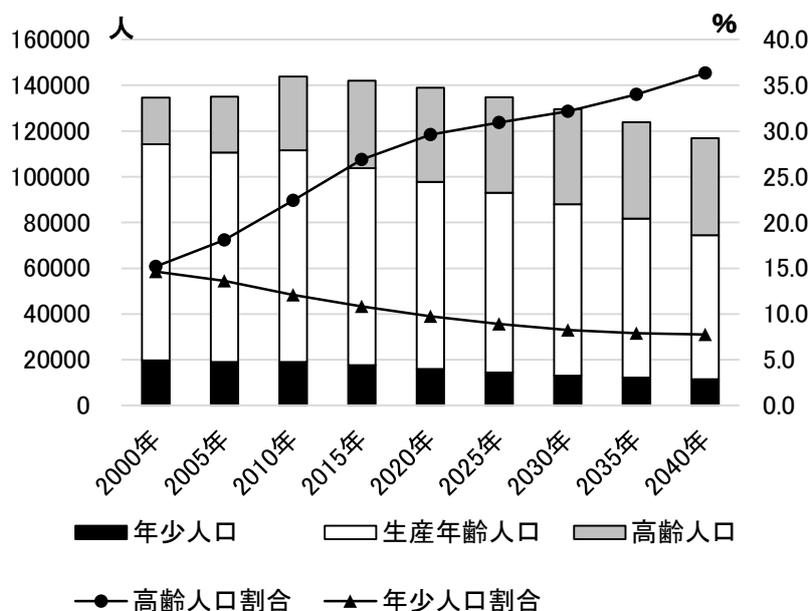


図 18：将来人口推計

3-2. 目標都市像

「エネルギッシュなまち」を目標都市像として掲げる。

3-3. 全体構想

土浦市の現状として、意欲的に活動している人々がいる。一方で、活動したいけれど活動できる環境がないことが原因で、意欲的に活動できていない人々もいる。活動できる環境を整え、意欲的に活動する人々をさらに増やし、土浦をより元気にしたいと考えた。

そこで、目標都市像として「エネルギッシュなまち」の実現を目指す。なお、私たちは「エネルギッシュ」を「人々がより意欲的に活動すること」と定義した。

つまり、「エネルギッシュなまち」とは、活動ができる環境を整えることで、人々がより意欲的に活動できるまちのことである。

第 4 章 部門別構想

都市像として定めた「エネルギーなまち」を実現するための構想として、次の 5 つの部門別目標を示す。

- ①人々でにぎわうエネルギーなまち
- ②地域活動でエネルギーに交わるまち
- ③安心してエネルギーに暮らせるまち
- ④緑とのふれあいでエネルギーなまち
- ⑤皆がエネルギーに運動できる霞ヶ浦

これら 5 つの部門別目標を設定し、部門別目標に基づいて重点的に計画を進めることによって、活動できる環境を整え、人々がより意欲的に活動できるようになる。これにより、土浦市がより意欲的に活動する人が溢れ、目標都市像の「エネルギーなまち」を実現させる。

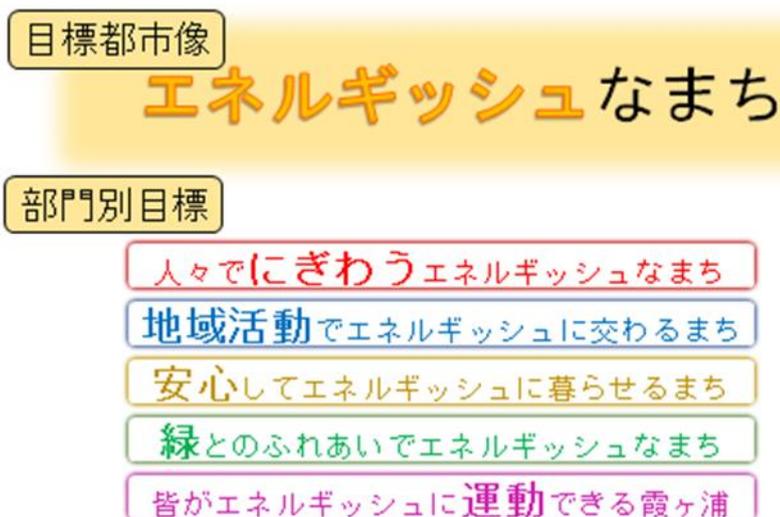


図 19 : 目標都市像・部門別構想

4-1.人々でにぎわうエネルギーなまち

土浦市内の商店を見ると、荒川沖駅周辺において「さんぱる」の撤退などの空き店舗の増加が問題となっている。また、神立駅周辺の道路沿いにおける空き店舗など、市内において空き店舗問題があることがうかがえる。

中心市街地における空き店舗の数は、図 20（土浦市中心市街地活性化基本計画）より近年増加傾向である。それにより、景観が損なわれるだけでなく、商業空間としての連続性がなくなり魅力が失われつつある。また、中心市街地の歩行者通行量を見てみると、図 21（土浦市中心市街地活性化基本計画）より近年減少傾向にあることがわかる。これは、郊外に大規模商業施設が立地したことや、モータリゼーションが原因であると考えられる。

土浦市において商業を活性化させ、にぎわいを創出することで、「人々でにぎわうエネルギーなまち」を目指す。それを実現させるために、空き店舗にテナントを誘致したうえで、人々が足を運びたいくなるように促す。

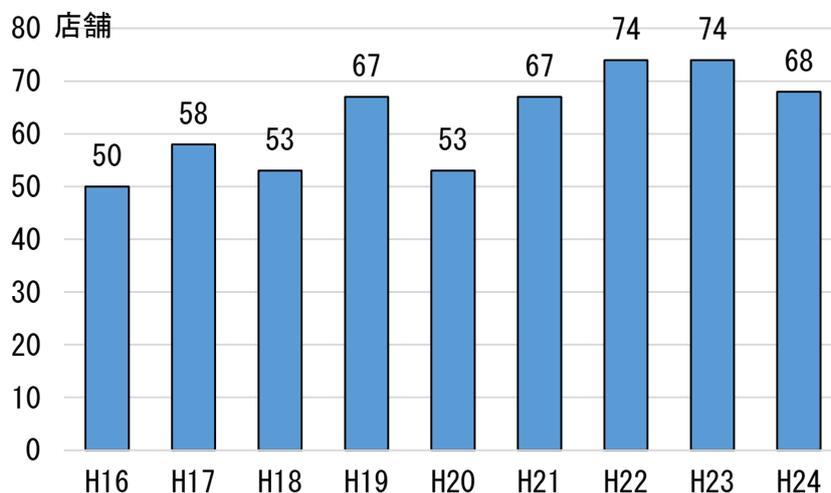


図 20：中心市街地の空き店舗の状況

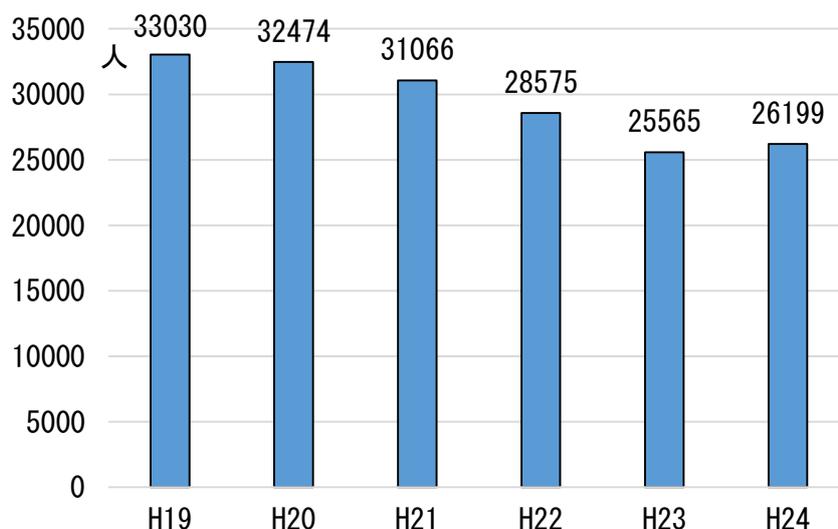


図 21：年度別歩行者交通量調査結果

4-2.地域活動でエネルギーに交わるまち

土浦市の一人当たりの公民館のサークル登録状況を見ると、図 22（同好会・サークル一覧より作成）のようになっている。特に全体と比較して、上大津公民館は少ないことがわかる。図 23（同好会・サークル一覧より作成）より、音楽系・文化系・教養系の活動団体は全体的に見て少ないことがわかる。このことから、地域活動を通じた住人同士の交わりが減少していることや、地域活力の低下が生じることが考えられる。そこで、現状を踏まえ、「地域活動でエネルギーに交わるまち」という構想を掲げる。市民が地域活動を行うことを促進するため、地域活動のための活動場所を整備し、市民への団体情報やイベント等の情報を拡散することによって、人々がより意欲的に活動できる環境を整える。そして、活動を通じ、エネルギーな交わりを創出する。

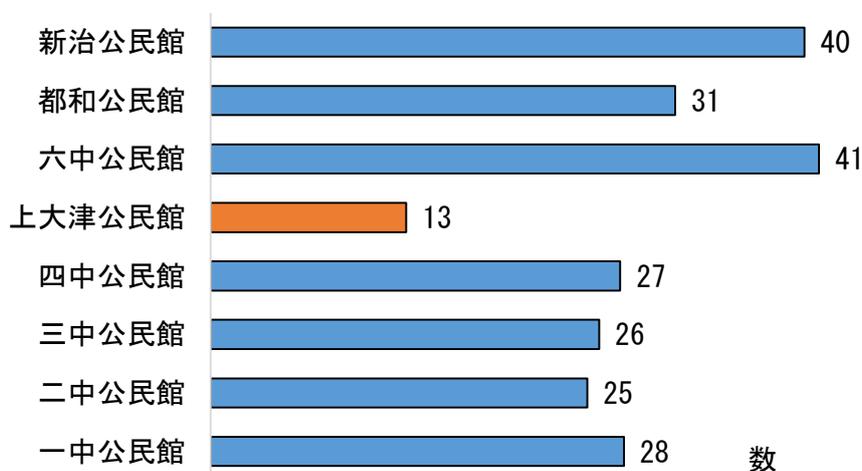


図 22：一人当たりの公民館のサークル登録状況

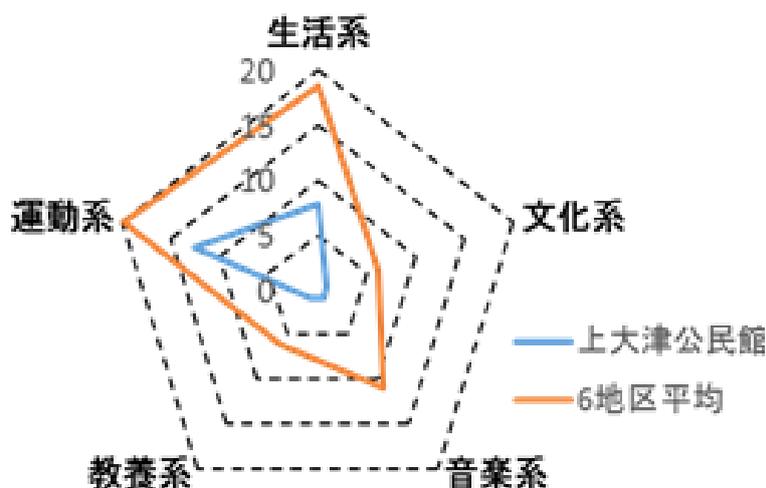


図 23：種類別活動団体

4-3.安心してエネルギーに暮らせるまち

茨城県警察によると、1000人当たりの犯罪認知件数は、図24のようになる。特に、荒川沖地区は犯罪率が高く、茨城県平均、全国平均と比べても高い犯罪率である。図25より土浦市地区別人口を見ると、荒川沖地区において、子供が多いことがわかった。

構想として「安心してエネルギーに暮らせるまち」を掲げる。子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らせるまちを目指す。そこで、誰もが安心して暮らすために生活環境を整える。行政に生活環境を整えることを任せるのではなく、市民の目線から日常生活での課題を発見し、その課題を解決することで、安心して暮らすことができるようにする。

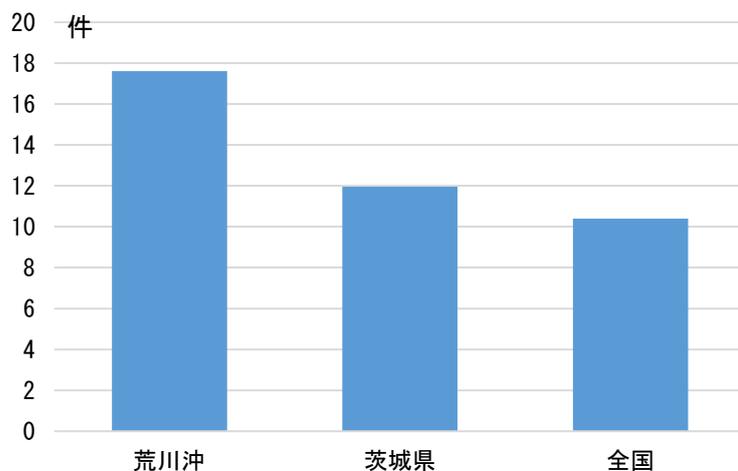


図24：1000人当たりの犯罪認知件数（平成25年）

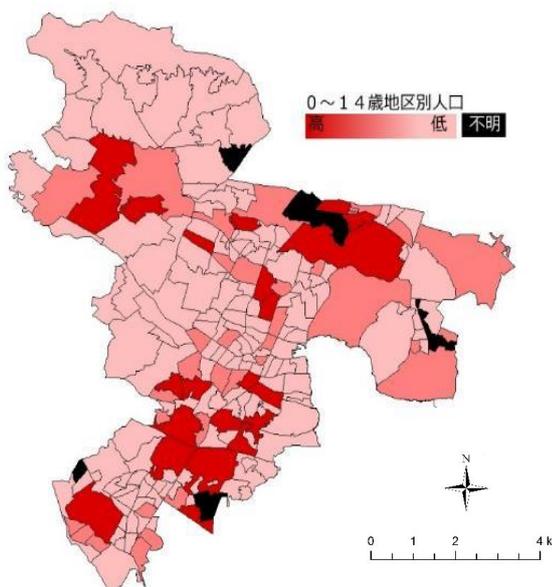


図25：地区別の幼年人口（0~14歳）割合の分布

4-4. 緑とのふれあいでエネルギーシユなまち

土浦市内では新治地区、霞ヶ浦周辺において農業が盛んである。土浦市の農業の課題として、耕作放棄地の存在と高齢化が挙げられる。土浦市の耕作放棄地について、土浦市「土浦市耕作放棄地解消計画（平成 22 年）」によると、図 26 に示される農用地区域における耕作放棄地のうち、土浦市全体の約 5 割を新治地区が占めている。図 27 に示される耕作放棄地となった理由としては、高齢化、耕作不便、人手不足といった理由が挙げられる。つまり、耕作放棄地の集約的な管理と新たな担い手が必要である。

特に新治地区で、表 1 に示される平成 20 年度新治中学校地区における耕作放棄地面積を見ると、草刈り等で直ちに耕作が可能な農地が存在する。また、土浦市農業委員会「貸付等希望農地一覧（平成 26 年 12 月 16 日掲載）」によると、図 28 より農地所有者が貸付等の希望している人がいる。ゆえに、新治地区において活用が可能な農地が存在する。

構想として、土浦市の農業や自然といった「緑とふれあいでエネルギーシユなまち」の実現を目指す。耕作放棄地を集約的な管理・活用することで耕作放棄地を解消し、人々が緑にふれあい、エネルギーシユに活動できるようにする。

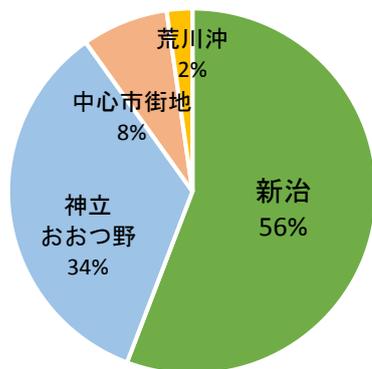


図 26：農用地区域における耕作放棄地の割合
（土浦市全体 191.1ha）

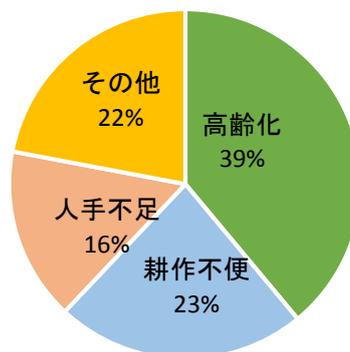


図 27：耕作放棄地となった理由（複数回答あり）

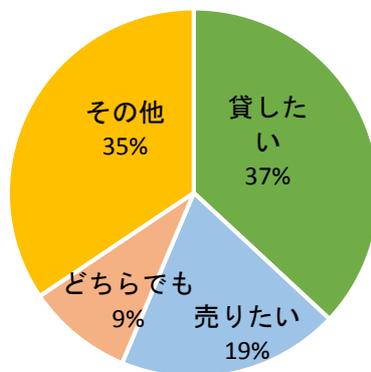


図 28：農地所有者が貸付等の希望（N=119）

表 1：新治中学校地区における耕作放棄地面積

草刈り等で直ちに耕作が可能な農地	70.1ha
草刈り等では耕作できないが条件整備で利用可能な農地	47.2ha

4-5. 皆がエネルギーに運動できる霞ヶ浦

霞ヶ浦は、湖の面積としては日本第2位であり、知名度も高い。図 29（霞ヶ浦への招待霞ヶ浦へのレクリエーションなど）のように、昔は泳げる湖として遊水場も整備されていたが、水質汚染の影響により現在は泳ぐことができない。依然として、霞ヶ浦の水質汚染は大きな課題である。しかし、現在でもなお霞ヶ浦では、ウィンドサーフィンやヨットなどの水上スポーツが盛んである。霞ヶ浦周辺には、川口運動公園・霞ヶ浦文化体育施設などのスポーツ施設もあり、スポーツ施設の整備が行われてきている。湖の周囲が自転車道路になっていることも大きな特徴であるといえる。また、観光面・環境面でも整備を行っており、例えば、帆曳船・遊覧船などの観光船、ネイチャーセンターなど水生植物を保護する施設などである。産業面で考えると、漁業でワカサギやシラウオなどが漁獲される。また、釣りも盛んである。

霞ヶ浦周辺には、スポーツ施設が多く立地していることから、市民から市外の人まで多くの人々がエネルギーに利用できる空間を整備する。2020年には東京オリンピックが開催される。また、2019年に茨城県で国民体育大会（国体）が開催される。1974年に国体が開催されたときは、ヨットハーバーが競技の会場になっていたこともあり、水上スポーツも盛んであったことがうかがえる。そこで、既存のスポーツ設備を活かしながら、市民が日常的な運動で霞ヶ浦を利用できるようにすることを目指す。



図 29：浮島湖水浴場（1956年）

(http://www.kasumigaura.pref.ibaraki.jp/04_kenkyu/introduction/documents/19.pdf)

第 5 章 地区別構想

土浦市を図 30 に示すように、「中心市街地」・「神立・おおつ野」・「荒川沖」・「新治」・「霞ヶ浦」の 5 つの地区に分けて地区ごとの方針を示す。

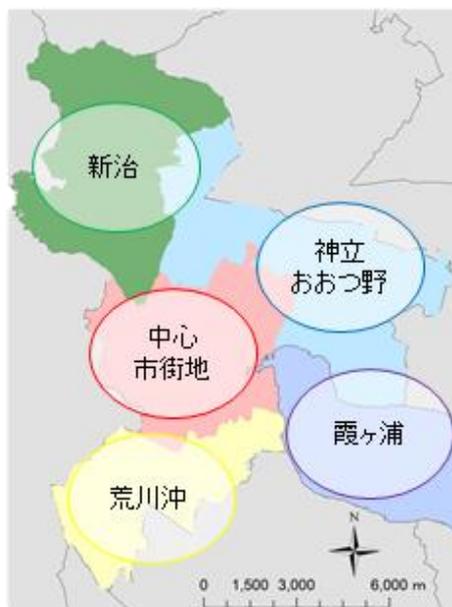


図 30 : 地区区分

5-1. 中心市街地

中心市街地では土浦駅周辺に市役所の移転と図書館の新設が予定されている。公共交通機関が集積していて交通の便が良い地区である。しかし、商業の衰退化が見られ、土浦駅周辺の商店街ではシャッターが閉まっている店舗が多数存在するだけでなく、モール 505 においても空き店舗が見受けられる。これは、郊外に大規模商業施設が立地したことや、モータリゼーション化が原因であると考えられる。土浦市が行っている、歴史的商家建築物改修事業・歴史の小径整備事業・都市景観整備事業により、まちかど蔵や亀城公園など歴史的街並みが残っている。

さまざまな都市機能が集積する中心市街地において、土浦市の顔として、にぎわいあふれる土浦の核となる地区となることを目指す。



図 31 : モール 505



図 32 : 東櫓

5-2. 神立・おおつ野

土浦市の北部に位置する神立地区は、神立駅周辺の土地区画整理事業により、交通利便性と歩行者スペース等の住環境の快適性が向上されることが期待される。また、おおつの地区は、新協同病院の移転と新規商業施設と福祉・医療施設等が建設予定のニュータウンであるおおつ野ヒルズを核として今後人口が増加すると考えられる。

おおつ野ヒルズと霞ヶ浦に挟まれるように出荷額日本一のレンコン畑が広がっている。

さらに、神立駅周辺及び、おおつ野ヒルズには工業地域が広がっており、土浦市企業立地奨励金交付制度を始めとした企業誘致が盛んである。しかし、農家が集積する地域では狭隘道路が多いことや、学校の集まる地域における街灯や歩行者道路等の通学路環境の問題が挙げられる。今後、医療サービスの利用者が増加すると見込まれているが、公共交通は土浦-霞ヶ浦科学センター間のバスが1日に約7本程度しか走っていない現状など、今後の発展に見合う整備が十分とは言えない。

今後の発展による人口の流入に対応したうえで、定住する人々が快適に暮らせるような地区の整備を、行政だけに頼らず住人同士が協力し合うことで支える地区を目指す。

5-3. 荒川沖

荒川沖地区は、つくば市、牛久市、阿見町に隣接している。JR 常磐線の荒川沖駅には、バスのロータリーが整備されており、つくばセンター、土浦駅行きのバスのほか、あみプレミアム・アウトレット（2009年開業）への直通バスの発着駅になっている。現地見学より、路上駐車している自動車が多数見受けられた。荒川沖駅前のドン・キホーテと、専門店が入っていた荒川沖ショッピングセンター「さんばる」は2015年1月に閉店した。また、学園東大通り沿いにはジョイフルホンダといった大型店舗が存在する。荒川沖地区付近には、常磐自動車道の桜土浦ICが存在し、その周辺には土浦市公設地方卸売市場があり、流通の拠点としての役割を担っていると考えられる。

今後も商業や流通の機能を保ちながら、子どもから高齢者まで誰もが安心して良好な環境で暮らせる地区を目指す。



図 33 : 放置自転車



図 34 : 土浦市公設地方卸売市場

5-4.新治

新治地区は2006年に土浦市に編入した。新治地区は土浦市の北西部に位置しており、土浦市内でも農業が盛んで、筑波山麓をはじめとする豊かな自然、田園や里山の景観を残す地区である。畑地や水田が広がり、果樹園も多数見受けられる。JA 土浦サンフレッシュ新治には地元の農産物が販売されており、生産者が分かるので農産物を安心して購入することが可能である。果樹園では柿や栗、ぶどう、なし、いちごなどが栽培されており、フルーツライン（茨城県道199号小野土浦線）沿いには直売所が多数見受けられる。

ショッピングセンターの「さん・あびお」があり、現地見学より、地域密着型のショッピングセンターという印象を受ける。2013年には新治地区公民館が新しく開館し、地域の新たな拠点となっている。また、新治地区には小野小町の伝説が残る小町の館や、スカイスポーツを楽しむことができる朝日展望公園など観光名所が多数存在する。

2012年に朝日トンネルが開通したことにより、土浦市と石岡市のアクセスが向上した。また、常磐自動車道の土浦北ICが存在し、その周辺には流通企業の倉庫や工場があり、流通の拠点としての役割を担っていると考えられる。

地区の特徴である農業や自然といった緑を活かして、人々が生活し続けることができる地区を目指す。

5-5.霞ヶ浦

霞ヶ浦は、湖の面積としては日本第2位であり、知名度も高い。昔は泳げる湖として遊水場も整備されていたが、水質汚染の影響により現在は泳ぐことができない。依然として、霞ヶ浦の水質汚染は大きな課題である。一方、霞ヶ浦ではウィンドサーフィンやヨットなどの水上スポーツが盛んである。また、ブラックバスが釣ることができるポイントであり、釣りも盛んである。周辺には、川口運動公園・霞ヶ浦文化体育施設などのスポーツ施設もあり、霞ヶ浦周辺でスポーツ施設の整備が行われてきている。湖の周囲が自転車道路になっていることも大きな特徴であろう。また、観光面・環境面でも整備を行っており、観光帆船・観光遊覧船などの観光船、ネイチャーセンターなど水生植物を保護する施設などが例である。産業面で霞ヶ浦をとらえると、漁業でワカサギやシラウオなどが漁獲される。

土浦のシンボルとして、だれもが気軽に利用できる霞ヶ浦を目指す。



図 35 : 川口運動公園



図 36 : ヨット

第 6 章 重点計画

目標都市像の「エネルギーなまち」に近づくため、部門別構想に沿って重点的に取り組む計画を示す。部門別構想に沿って重点的に取り組むことで、地区別構想を実現させる。

6-1. 「人々にぎわうエネルギーなまち」への計画

土浦の顔である中心市街地において重点的に計画を行う。中心市街地には新市役所と新図書館が移転する予定である。表 2 (新庁舎整備課へのヒアリング結果) に示されるように、新市役所と図書館ができることで、合計 5200～6200 人/日が中心市街地に流入すると予想される。そこで、この流入人口を中心市街地に回遊させることが、中心市街地のにぎわいにつながると考えた。

表 2：中心市街地の予想流入増加人数

場所	予想増加人数
市役所（うち職員）	2200 人（700 人）
図書館の利用者	3000～4000 人
合計	5200～6200 人

「人々にぎわうエネルギーなまち」を目指す計画として、中心市街地において 2 つの提案を行う。

1 つ目は中心市街地における、空き店舗へのテナント配置を考えることである。新市役所移転や、図書館の新設など、中心市街地に人々が集まる目的が増えると考えられる。しかし、中心市街地周辺の現地見学より、桜町周辺を除き昼間に開いている飲食店が少ないことがわかった。そこで、中心市街地において、食事を楽しめるという新たな目的をすることで、より多くの人々が訪れるのではないかと考えた。また、図書館利用時や、来庁時に小腹が空いたら、気軽に利用してもらえと考えた。よって、中心市街地に飲食店を整備することを考える。

今回は、モール 505 へ飲食店を整備することを考える。具体的に、モール 505 に飲食店を配置した時の中心市街地における空間利用のイメージを図 37 に示す。これより、モール 505 に食を楽しめる空間を整備することで、中心市街地に新たに訪れる人々の目的を作ることができるのではないかと考えられる。

2 つ目は店舗に訪れたいくなるような提案の実施である。具体的には既存の歩数マイレージ制度の事業拡大である。土浦スポーツ健康倶楽部へのヒアリングより、既存の歩数マイレージは、会費を 1000 円払うことにより、毎日の平均歩数の 10 歩を 1 円と換算し、商品券をもらえるという仕組みである。また、高齢者が利用者の大半を占めていることや、利用者数に制限があることが課題である。歩数計を持つことで、歩く動機付けになることから、健康にもつながることが大きなメリットである。そこで、土浦スポーツ運動倶楽部でも企画しているように、アプリ開発による若者利用を促す提案を「つちマイル（参る）」

と題して行う。アプリを用いることで、多数の人が気軽に利用できることや、若者が参加しやすいことが、既存の歩数マイレージとは異なる点である。また、商店側として、アプリ利用者に対し広告を一斉に発信できることが大きなメリットである。事業のスキームを図 38 に示す。歩数マイレージでは会員が出資することで運営を行っていた。一方、今回の「つちマイル」では、広告掲載を希望する店が広告料を支払うことにより、出資金を得ることで運営を行う。また、アプリ機能として商品券への換金、歩いたルートの確認、ルートによる歩数の重みづけ変更等が行える。ルートによる歩数の重みづけを変更することにより、よりポイントを稼ごうと、さらに歩いてもらう動機付けになると考えられる。

以上の提案を行うことにより、「人々でにぎわうエネルギッシュなまち」の実現に近づく。



図 37：中心市街地の空間のイメージ

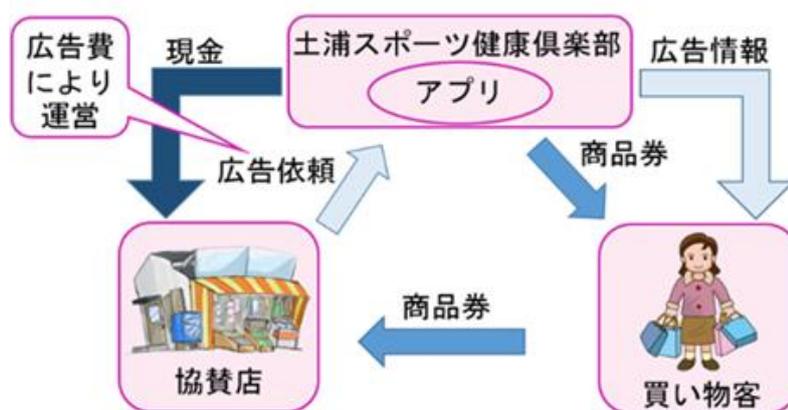


図 38：つちマイルにおける事業スキーム

6-2. 「地域活動でエネルギーに交わるまち」への計画

地域活動に関して、おおつ野自治会への問い合わせや上大津公民館へのヒアリングの結果から自治会加入率は100%である。一方で、おおつ野ヒルズの開発により、新しく居住してきた人々と元々住んでいる人々との交流という側面では、まだ十分に交流がなされていないことが分かった。さらに、神立・おおつ野地区内での地域活動は少ないことが分かった。

そこで、神立・おおつ野地区において重点的に計画を行う。具体的な提案として以下の①、②を行った上で地域が交わるための仕組みを提案する。

① 音楽・運動拠点のための防音室整備（図 39）

地域での活動をより活発にするために、集会所を活用して、大きな音が出るダンス、演劇活動や合唱、バンド活動等の音楽やエクササイズ等の活動のために防音壁の設置、また、ダンスなどの活動のために移動式の姿見を設置する。なお、集会所としての機能も残すことで多様な利用選択が行えるようにする。

② 地域情報サイトの設置

地域の不審者情報や災害情報など、安心安全な暮らしのためのコンテンツを兼ね備えたものである。また、ここに市民掲示板としての機能を備えてサークル活動の募集やイベントの告知を行うことが出来る。市民へのサークル団体情報やイベント等の情報を充実させて、地域での活動を活発にする。

上記2つを組み合わせ、音楽で笑顔をつくる「音友プラン」を行う。地域の活動拠点として高齢者福祉施設・協同病院などと提携を行うことで、高齢者や病院利用者を元気づけることを目指す。また、施設のイベントにおける団体の誘致の際は公民館を経由する。公民館は地域情報サイトを用いて、団体にイベント告知をして参加団体を募る。これにより、様々な団体への活動の場の提供、さらに、施設の負担が減ることによって気軽にイベント誘致ができる上に様々な種類の団体に触れられる環境作りをすることを目的とする。



図 39 : 防音室のイメージ

6-3. 「安心してエネルギーギッシュに暮らせるまち」への計画

「安心してエネルギーギッシュに暮らせるまち」を実現するために、「コミュニティ道路整備」と「つちレポ」アプリ政策を実施する。特に犯罪率が高く、子供が多いことから、安心・安全が要求される荒川沖地区を対象として重点的に計画を行う。

コミュニティ道路の目的は2つある。1つ目は、車と歩行者の共存を実現させ、市民の方が安心して歩ける道路を設けることである。具体的には、歩行者の安全を確保するために自動車が速度を落とすように花壇を設置することである。2つ目は、道路の植木づくりを通し、市民同士の交流が生まれることである。土浦市で盛んに行われている「花いっぱい運動」を活用し、市民による植木作りを進めていく。コミュニティ道路のイメージを、図40に示す。

「つちレポ」というスマホアプリを開発する。図41に概要を示す。土浦市の住民が気づいたまちの問題を「つちレポ」アプリを通して行政や住民に共有する。それに対して行政が改善策をとり、市民参加型、市民の声を反映させながら人々が安心して暮らせるまちにつながる。



図40：コミュニティ道路のイメージ



図41：「つちレポ」の概要

6-4. 「緑とのふれあいでエネルギーなまち」への計画

現在、土浦市が運営している市民農園の利用状況・利用者・設備に関して、農林水産課にヒアリング調査を行った。表 3 に示されるヒアリング調査の結果より、意欲的に市民や農家が活動できる環境が整えられていないと感じられた。そこで、緑にふれあえる環境として市民農園を充実させることを提案する。

表 3：市民農園に関するヒアリング調査

日付	2015年1月28日(水)
対象	土浦市農林水産課振興係
内容	①市が運営の5つの市民農園の利用率が高い ②農園で農業指導は行われていない (※中村西根では数回、有機栽培の指導が行われている) ③行政主体で交流を促す行事は行われていない ④農作業道具入れ・トイレ・駐車場等がある

市民農園は図 42 に示されるように運営する。市民農園は管理組織が開設主体となって開設する。市民は管理組織に会員登録をして市民農園を利用することができる。市民農園として利用する農地は、農地を貸し付けたい農家から提供していただく。管理組織は農地を提供した農家に使用料を支払うことで、農家は市民農園において市民に農業指導や農園に来られない市民がいる場合には栽培代行を行う。管理組織は提供された農地に応じて区画を設定する。また、市民農園で市民と農家の交流が促されるように、バーベキューや収穫祭といった交流会を開催する。市民は農作物の栽培、収穫、味わうといった一連の農業に関わる流れを通じて、農業に親しみ人々とふれあう。農家は農地を有効活用することができ、農業指導で市民と関わることで生きがいを感じる。

具体的に想定している市民農園の設置場所は、土浦市農業委員会「貸付等希望農地一覧(平成26年12月16日掲載)」より、新治地区の公民館や庁舎の付近にある畑(768㎡)を想定している。表 4 に開設された場合の市民農園の要領と図 43 に設置場所を示す。

管理組織は農地の広さや場所に応じた区画を設定し、農家や利用者に利用方法の提示することで、状況に合わせて市民農園を充実させる。市民農園において、それぞれが意欲的に活動できる環境を整え、「緑とのふれあいでエネルギーなまち」の実現を目指す。

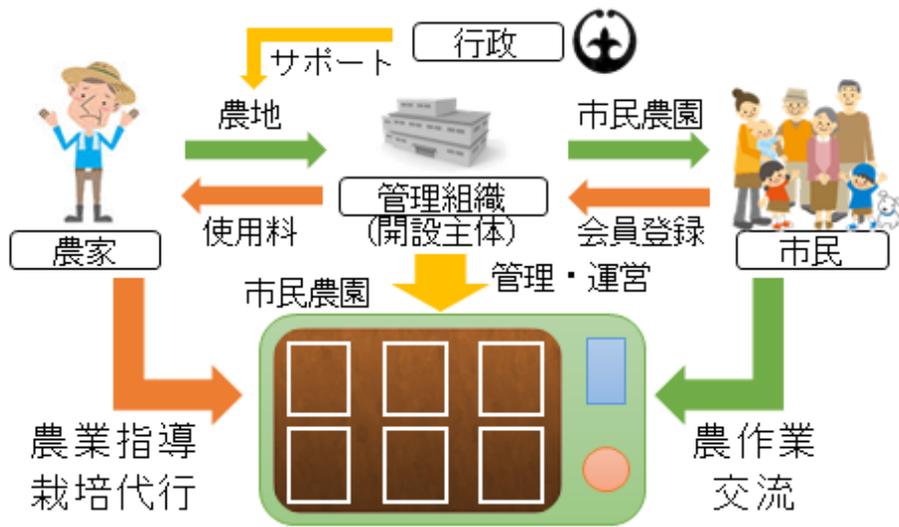


図 42：市民農園の運営

表 4：市民農園の要領

新治市民農園	
目的	農業を通じたふれあいで 市民の方々の交流を深める
対象	土浦市民の方々
設備	水道・トイレ・休憩所 掲示板・農具庫・ゴミ捨て場
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農業への理解を深める ・新鮮な旬の野菜を収穫し味わう ・サポートを受けられるので、安心して利用できる



図 43：市民農園の設置想定地

6-5. 「皆がエネルギーに運動できる霞ヶ浦」への計画

霞ヶ浦を皆に利用してもらうための、重点計画としてラクスマリーナ周辺での宿泊施設の建設を提案する。具体的には、図 44 の位置に図 45 に示すような施設を建設する。

施設利用として 1 階部分をランナーやサイクリストのための休憩設備を設け、市民が日常的な軽い運動でも利用できる気楽な空間を創出する。周辺には陸上トラックがある点や、りんりんロードからのアクセスも良いため、休憩所の利用者数は多く見込まれる。また、2・3 階の利用として宿泊設備を設け、市民のみならずスポーツ合宿・釣り人・観光客などをターゲットに集客を行う。

2019 年の国体では市内 3 か所の会場で競技が行われることになっている。また、そのうちの 2 か所が川口運動公園（軟式野球）・霞ヶ浦文化体育館（相撲）であり、いずれも霞ヶ浦周辺の会場が使用される。国体や 2020 年のオリンピックに向け、スポーツ合宿としての需要も伸びると考えられる。

このような宿泊施設を整備することで、軽い運動から激しい運動をする人のみではなく、観光客など様々な人が霞ヶ浦を利用できる。また、市民がより運動を行う提案として、「霞ヶ浦大運動会」の開催を行う。地区別対抗で行い、年齢関係なく様々な市民が参加できる。運動会を目標に運動を行う人の増加や、新たな種目への興味、また多世代間交流などのメリットがある。以上の 2 つの提案を行うことで、市民だけではなく「皆がエネルギーに利用できる霞ヶ浦」になると考える。



図 44：国体開催地および宿泊施設建設予定地



図 45：宿泊施設の完成イメージ

表 5：宿泊施設の整備費用

宿泊施設（宮城県リフレッシュプラザ参考） RC造3階（30室、100名収容、60年耐久と仮定）	
建築面積	850 m ²
延べ床面積	1600 m ²
用地面積（45m×38m）	1710 m ²
費用	
土地取得費（3.85万円/m ² ）	65835万円
建設費（27万円/m ² ）	43200万円
維持管理費（建設費の4.5倍と仮定）	194400万円
総費用（60年間）	244183.5万円
利用想定（平成21年国民宿舎水郷参照）	
稼働日数	362日
利用者数	13445人
1日当たり利用者数	37人/日
宿泊費の想定	
必要な最低宿泊費	3026円/人

第 7 章 まとめ

図 46 に示される 5 つの部門別の目標を設定し、部門別目標に基づいて重点的に計画を進めることによって、活動できる環境を整え、人々がより意欲的に活動できるようになる。これにより、土浦市がより意欲的に活動する人が溢れ、目標都市像の「エネルギーなまち」を実現させる。

人々でにぎわうエネルギーなまち

地域活動でエネルギーに交わるまち

安心してエネルギーに暮らせるまち

緑とのふれあいでエネルギーなまち

皆がエネルギーに運動できる霞ヶ浦

エネルギーなまちに！

図 46：目標都市像・部門別構想

謝辞

今回の都市計画マスタープラン策定実習にあたり、指導して下さった先生方、TAの方々、また、ヒアリング調査にご協力して下さった多くの方々を含め、実習に関わったすべての方々に、この場をお借りし班員一同感謝申し上げます。

- ・ JA 土浦 高野様
- ・ NPO 法人まちづくり活性化土浦 小林様
- ・ 土浦市農林水産課 酒井様、宮川様
- ・ 土浦市保健福祉部高齢福祉課高齢福祉係 加藤様、村山様
- ・ 土浦商工会議所 菅原様
- ・ 土浦市新庁舎整備課 塚本様
- ・ 土浦市都市計画課 飯泉様
- ・ 土浦市産業部商工観光課 中嶋様
- ・ JFE 商事株式会社 川村様
- ・ 平塚市中央公民館 社会教育主事 鶴田様
- ・ おおつ野自治会 大部様
- ・ 上大津公民館
- ・ 土浦市農林水産課振興係
- ・ 土浦市教育委員会スポーツ振興課 中根様
- ・ 土浦スポーツ健康倶楽部 古徳様
- ・ ご協力いただいた土浦市民の皆様

参考

- ・土浦市『土浦市第7次総合計画』
- ・土浦市『土浦市都市計画マスタープラン』
- ・土浦市『平成25年度統計つちうら』
- ・土浦市『土浦市公式ホームページ』
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.html>) (2015.1.20 アクセス)
- ・茨城県『茨城県の年齢別人口（茨城県常住人口調査結果）四半期報』
(<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/nenrei/index.htm>) (2015.1.20 アクセス)
- ・土浦市『土浦市地区別人口及び世帯数一覧（常住人口）』
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page001168.html>) (2015.1.20 アクセス)
- ・国立社会保障・人口問題研究所『将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比（平成25年3月推計）』
(<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/4shihyo/Municipalities.asp>) (2015.1.20 アクセス)
- ・土浦市『土浦市の農業』
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page001111.html>) (2015.1.20 アクセス)
- ・農林水産省『市町村の姿 グラフと統計でみる農林水産業 茨城県土浦市 詳細データ』
(<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/08/203/details.html>) (2015.1.20 アクセス)
- ・農林水産省『2010年世界農林業センサス報告書』
(<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2010/houkokusyo.html>) (2015.1.20 アクセス)
- ・土浦市『土浦市の工業』
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page001492.html>) (2015.1.20 アクセス)
- ・国土交通省国土政策局国土情報課『国土数値情報ダウンロードサービス』
(http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/gml_datalist.html) (2015.2.11 アクセス)
- ・土浦市『土浦市統計書平成23年度版』
- ・茨城県『平成24年 観光客動態調査報告』
(<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/syoukou/kanbutsu/dotai/dotai24.pdf>) (2015.1.20 アクセス)
- ・総務省統計局『地図で見る統計（統計GIS）』
(<http://e-stat.go.jp/SG2/eStatGIS/page/download.html>) (2015.2.11 アクセス)
- ・土浦市『平成25年第2次土浦市地域福祉計画』
(http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1373377734_doc_20_0.pdf) (2015.2.11 アクセス)
- ・土浦市『平成18年度まちづくりアンケート調査結果の概要』
(http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1219234927_doc_3.pdf) (2015.2.11 アクセス)
- ・土浦市『平成25年度土浦市民満足度調査』
(http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1402041574_doc_3_0.pdf) (2015.2.11 アクセス)
- ・茨城県警察『市町村別認知件数・犯罪率』
(http://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01_safety/statistics/shichoson.html) (2015.1.20 アクセス)

- ・土浦警察署『土浦防犯ニュース平成 27 年第 1 号』
(http://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/station/tsuchiura/pdf/bohan_2701_01.pdf) (2015.2.4 アクセス)
- ・警察庁『平成 25 年の犯罪情勢』
(<https://www.npa.go.jp/toukei/seianki/h25hanzaizyousei.pdf>) (2015.2.4 アクセス)
- ・土浦市『自主防犯活動』
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page000646.html>) (2015.2.11 アクセス)
- ・茨城県霞ヶ浦環境科学センター『霞ヶ浦への招待 霞ヶ浦の洪水』
(http://www.kasumigaura.pref.ibaraki.jp/04_kenkyu/introduction/documents/21.pdf) (2015.2.11 アクセス)
- ・茨城県霞ヶ浦環境科学センター『霞ヶ浦への招待 霞ヶ浦のレクリエーションなど』
(http://www.kasumigaura.pref.ibaraki.jp/04_kenkyu/introduction/documents/19.pdf) (2015.2.11 アクセス)
- ・東日本旅客鉄道株式会社『各駅の乗車人員』
(<http://www.jreast.co.jp/passenger/>) (2015.2.11 アクセス)
- ・土浦市『土浦市中心市街地活性化基本計画』
(http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1395893268_doc_34_0.pdf) (2015.1.20 アクセス)
- ・まちづくり活性化土浦 『平成 25 年度版 土浦市中心市街地基礎指標調査』
- ・土浦市『同好会・サークル一覧 (平成 26 年度版)』
(http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1411377313_doc_41_0.pdf) (2015.2.11 アクセス)
- ・土浦市耕作放棄地対策協議会・土浦市『平成 22 年度土浦市耕作放棄地解消計画』
(https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1269591701_doc_27.pdf) (2015.1.28 アクセス)
- ・土浦市『都市と農村との交流事業 (市民農園)』
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page000289.html>) (2015.1.28 アクセス)
- ・土浦市農業委員会『貸付等希望農地一覧 (平成 26 年 12 月 16 日掲載)』
(http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1416443709_doc_51_0.pdf) (2015.1.28 アクセス)
- ・愛知県・農業総合試験場『農業体験農園開設の手引き』
(<http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000067/67417/kaisetsutebiki1.pdf>) (2015.2.1 アクセス)
- ・農林水産省『市民農園の整備が可能な補助事業等』
(http://www.maff.go.jp/j/nousin/nougyou/simin_noen/s_kaisetu/pdf/26hojo.pdf) (2015.2.1 アクセス)
- ・グランディ・21 宮城県総合運動公園『リフレッシュプラザ』
(http://www.mspf.jp/grande21/index.php?action=sisetu_shoukai_refresh) (2015.2.4 アクセス)

付録

ヒアリング調査

日付	対象	内容
2014年11月28日	JA土浦 中央支店 グリーンショップ中央 高野様	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興に関する取り組みについて ・農業体験について
2014年12月10日	NPO法人 まちづくり活性化土浦 小林様	<ul style="list-style-type: none"> ・キララちゃんバスの利用状況について ・路線別・年齢別の利用者数について ・バスの利用目的について ・地域通貨券キララについて ・事業における課題について ・今後、検討している活動について
2014年12月12日	土浦市産業部 農林水産課 酒井様、宮川様	<ul style="list-style-type: none"> ・農地について ・農産物について ・耕作放棄地について ・農業振興に関する取り組みについて ・都市と農村との交流事業について ・市民農園・農産物オーナー制度について ・農家レストランについて ・土浦市の郷土料理について
2014年12月12日	土浦市保健福祉部 高齢福祉課 加藤様、村山様	<ul style="list-style-type: none"> ・乗合タクシーの利用状況について ・住民への周知活動について ・業務における課題について ・今後検討されている施策について
2015年1月15日 (メールにて)	土浦商工会議所 菅原様	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地開業支援補助金について ・開業するうえでの難点について ・中心市街地で不足している業種について ・他に行われている空き店舗対策について
2015年1月16日	土浦市新庁舎整備課 塚本様 土浦市都市計画課 飯泉様	<ul style="list-style-type: none"> ・新市役所へ入るテナントについて ・新市役所・図書館の都市計画的意義 ・市役所の跡地利用について ・今後の中心市街地再開について
2015年1月19日 (メールにて)	土浦市産業部 商工観光課 中嶋様	<ul style="list-style-type: none"> ・国民宿舎水郷の利用状況について ・宿泊機能の再開について ・お食事処の機能再開について ・今後の展望・課題について

2015年1月21日	JFE 商事株式会社 川村修治様	<ul style="list-style-type: none"> ・おおつ野ヒルズ入居状況について ・ニュータウンとしての特色について ・地域交流について ・公共交通について
2015年1月28日 (メールにて)	平塚市中央公民館 社会教育主事 鶴田様	<ul style="list-style-type: none"> ・地区レクについて ・地区レクを開催する上での課題について
2015年1月28日 (メールにて)	おおつ野自治会 大部厳様	<ul style="list-style-type: none"> ・おおつ野自治会加入率について ・おおつ野自治会活動について ・地区のコミュニティについて ・地区の問題や悩みについて
2015年1月28日	上大津公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館利用状況について ・五中地区のコミュニティについて
2015年1月28日 (電話にて)	土浦市産業部 農林水産課振興係	<ul style="list-style-type: none"> ・市民農園について ・利用状況・利用者・設備について
2015年1月30日 (メールにて)	土浦市教育委員会 スポーツ振興課 中根様	<ul style="list-style-type: none"> ・川口運動公園の施設利用について ・霞ヶ浦文化体育会館の施設利用について ・各施設における利用競技種目について ・高齢者の利用目的について
2015年2月4日	土浦スポーツ健康倶楽部 古徳様	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きマイレージについて ・事業内容について ・事業における課題について ・今後の展望